

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	37		学校名	県立玉造工業高等学校					課程	全日制		学校長名		松代 寛			
教頭名	阿部 圭二										事務（室）長名		永井 幸恵				
教職員数	教諭	33	養護教諭	2	常勤講師	2	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手		7	事務職員	3	技術職員等	6	計	58
生徒数	小学科			1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	工業に関する学科			83	9							83	9	3			
	機械科					26	2	17	1			43	3	2			
	電気科					27	0	37	2			64	2	2			
	情報技術科					14	2	23	3			37	5	2			

2 目指す学校像

- ・ 至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能、技術を習得する。
- ・ 地域社会で活躍できる工業人の育成を図る。
- ・ すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努める。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身に付けた規律ある工業人の育成 ○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針	○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術の習得

別紙様式 1 (高)

(カリキュラム・ポリシー)	○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成する ○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む ○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒 ○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守り、安全な学校生活を送ることができる生徒 ○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教 務	基礎学力の向上を目的に、数学においては習熟度別授業、英語においては少人数制授業を展開している。また、ICT 機器を活用し、調べ学習やプレゼンテーション活動を通じて、生徒が主体的に学べる環境づくりにも取り組んでいる。これらの取組により、生徒の基礎学力および学習意欲については、一定の向上が見られた。 しかし一方で、欠点が 1 科目以上ついている生徒の数が、学年によっては増加傾向にある。具体的には、昨年度と比較して、2 学年では約 2 倍に増加しており、1 学年では約半数に減少している。また、授業を欠席する生徒も多く、欠課時	・ 欠点の生徒に対しては、補習・個別支援体制を強化し、早期に学習のつまずきを把握・対応する仕組みを整える。また、放課後や長期休業中の補習の充実も検討する。 ・ 生徒指導部や担任との連携を密にし、欠席・遅刻が目立つ生徒に対しては、生活習慣の改善も視野に入れた早期の支援を行う。 ・ ICT 活用や主体的・対話的で深い学びの実践事例を教員間で共有し、授業力の底上げを図る。また、評価基準や指導内容の共通理解を図り、全

別紙様式 1 (高)

	数に関する個別指導の件数も増加している状況である。	体で効果的な学びを保障できる体制を整える。
生徒指導	昨年度の特別指導の件数は37件であり、うち20件が前期、17件が後期に発生した。令和5年度はSNS関連の問題行動が多く発生したが、令和6年度には1件のみの指導件数となった。令和6年度は喫煙関連と無許可通学の指導が増加傾向にあり、その問題行動の動機には「友人同士の繋がりのため」、「ばれないと思った」等が挙がるなど、生徒の成長の余地が垣間見えた。 交通では死亡事故の発生はないものの、軽微な事故の報告があった。また、車両の整備を促す機会を設けるなど安全点検から事故防止を自ら考える指導を行った。 昨年のいじめの認知件数は3件であり、いずれもいじめ防止対策委員会にて組織的に判断して対応することができた。また、校内において自殺予防に関する伝達講習会を実施し、いじめ問題への理解と合わせて職員への周知を図った。	・SNS関連の問題行動において指導の成果が現れている一方で喫煙や無許可通学の件数が増加していること。 →年度初めの講話や各HRを活用し、指導を継続して実施していく。 ・死亡事故はないものの、軽微な事故があること。 →原付バイク通学者への一斉指導、車両点検の実施、原付バイク安全運転教室の参加等により、安全意識を高める。 ・いじめの認知を検討する案件が増えると予想されることから、職員間の情報共有と組織的対応を継続する。 →職員や生徒のいじめ問題理解を推進し、相談しやすい環境をつくる。
進路指導	令和6年度の就職においては、学校長推薦による就職が77名、公務員3名、縁故・自営5名の計85名であった。また本校で受付した求人は、県内外を合わせて1436名、2482件に達し、三年連続過去最高を更新している。近年企業は、人手不足を補うため高校生の採用を積極的に行っており、就職を希望する生徒にとっては、選択肢が広がっている状況が続いている。しかし、入社後、仕事の内容が合わず早期離職や休職してしまうミスマッチが起きている。	・進路ガイダンスや進路講話、企業説明会などを企画し、進路に対する早期意識づけやミスマッチの予防に努める。 ・各学年と情報を共有し、連携を図ることで入学から卒業まで一貫した進路指導を図る。 ・HP、進路通信の発行などをとおして、家庭や

別紙様式 1 (高)

	進学については、大学 7 名、専門学校 8 名の計 15 名であった。今年度は一般入試による受験者は一人もおらず、全員が指定校推薦や公募推薦、総合型選抜（旧 AO）による合格であった。近年、推薦基準を下げる学校もあり、学習意欲の希薄な生徒であっても、進学を選択する生徒もいる。そのため進学後、単位を修得できず、進級が危ぶまれる者も見られる。 また、進路に対する意識自体が希薄な生徒もあり、早い時期から進路を考え、社会生活を意識した学校生活を送れるように、各学年と連携し、情報の共有、提供、発信を行っていく必要がある。 昨年度も、延べ 700 団体を超える企業や学校が本校に来校され、想定を超える状況に対応が困難な場面も増えている。遠方から来校される企業・学校も多く、誠意ある対応と進路業務の負担軽減のバランスを考え、さらなる効率化や改善、削減を図る必要がある。	地域社会への積極的な情報発信に努める。 ・定期的に「求人管理システム」の管理企業と情報交換を行い、連携を強化することでシステムの安定的な運用、機能の向上、改善を図る。 ・日常的な進路業務の改善と日程の見直しを検討し、業務の効率化を図る。
保健厚生	昨年度は感染症にかかった生徒が多かったため、予防対策の呼びかけを行っていく必要がある。また、近年は地震や大雨による自然災害や、様々な事故が見受けられる。各部署と連携し、様々な災害の対策について検討を行い、防災体制の確立と事態に備えた準備・訓練を行っていく必要がある。今後は、想定される各種災害に対する防災体制の確立と防災マニュアルの見直しを図り、各訓練の内容をより効果的なもの	・感染症予防を考えて校内の衛生面に注意を払う。 ・各部署との連絡を密にし、事故・災害に迅速に対応できる体制を維持する。 ・防災避難訓練を年に 2 回実施する。 ・特別支援の充実を図る。学年・教科と連携し支援を必要とする生徒の早期発見と適切な支援を

別紙様式 1 (高)

	としていく。また、多様化する生徒に伴い、特別な支援を要する生徒も増加傾向にある。今後、個に応じた支援ができる体制を維持していく必要がある。	行う。 ・想定される各種災害に対する防災マニュアルを検討・作成する。
渉 外	生徒数減により P T A 会員数が減っているため、今まで通りの役員選出方法・活動では役員側にも職員側にも大きな負担となってしまう。また、P T A 活動費減、チャーターバスの利用者数減が進んでいる。 図書館業務は専門知識の少ない状態で取り組んでいるため、生徒への情報発信や運営全般において、より工夫が求められる。	・アンケート実施にて役員選出への協力を得られているので、さらに P T A 本部役員、後援会役員の円滑で安定的な選出方法を検討する。 ・チャーターバス運営方法の見直しを行う。 ・現在の職員による図書館業務の持続可能な運営を目指す。
特別活動	部活動については、各部活動顧問の工夫や努力の結果、部活動の継続率は高い。しかし、生徒の減少に伴い部活動数も減少してきている。(現在運動部 8 文化部 1) 学校行事については、キャリアパスポートを活用している。生徒が自発的・自主的に学校行事に参加できるように促している。また、学校ホームページを活用し本校の部活動や学校行事を積極的に校外へ発信している。	・部活動については、各部活の動画による紹介と 2・3 年生による勧誘の時間を設け、部活動の加入率を上げ活性化を目指す。また、部活動顧問会議を定期的に開催し、連絡を密にして学校全体の部活動の継続率を上げる。(年 4 回) さらに、ホームページを活用し、地域の方々に本校の活動を知っていただけるように更に工夫・改善する。(随時アップする) - 学校行事については、学年を横断した活動を行い、学校全体で活気ある行事を行えるようにする。また、キャリアパスポートを活用し、生徒達が自主的に参加できるように促す。
働き方改革	部活動の指導、資格・各種検定試験の指導、生徒・保護者	・学校の規模や専門性を考えた校務の精選を図る

別紙様式 1 (高)

	対応、学校行事の運営など多くの業務を担当し時間外労働が多くなっている職員が見られる。生徒数減少に伴い、クラス数が減ることで教職員数が少なくなる中、教職員一人一人の負担は増加し続けている。各校務の業務内容を明確化し、学校行事の簡素化や各種会議の効率化などが求められる。	ことで時間外労働の削減に取り組む。また、仕事を分担できる環境、休暇を取得しやすい職場の雰囲気醸成し、職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図っていく。月 45 時間超過の割合を 10%未満、80 時間超過の割合を 0 %にする。
--	---	--

5 中期的目標

- ・基礎学力の向上を図る。
- ・ICT を活用した、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善を図る。
- ・基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。
- ・学校の教育活動全般をとおして、キャリア教育の充実を図る。
- ・部活動や特別活動の充実を図る。
- ・地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。
- ・校務の改善、学校行事の見直しと職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
分かる授業の展開による基礎学力の向上と授業での ICT の効果的な活用を図る。	① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。 ② 各教科内で研修を充実し、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。 ③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。 ④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。 ⑤ 資格取得指導の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画的に実施する。
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る	⑦ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ⑧ 頭髪や服装等を正そうとする意識の醸成を図る。

別紙様式 1 (高)

とともに、交通安全教育の推進に努める。	⑨ 社会人として必要な公共のマナーの習得を図る。 ⑩ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。 ⑪ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	⑫ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。 ⑬ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話などキャリア教育の充実を図る。 ⑭ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	⑮ 学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。 ⑯ 部活動加入率を高め、活性化を図る。 ⑰ 奉仕体験活動を充実させる。 ⑱ 生徒の委員会活動を活発にする。
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	⑲ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実し、入学者数の増進を図る。 ⑳ 小中学校への出前授業を行う。 ㉑ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。 ㉒ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。 ㉓ 個人情報の保護、管理の徹底に努める。
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	㉔ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。 ㉕ 安全で衛生的な環境作りに努める。 ㉖ 不測の事態に備え、防災意識を高める。
働き方改革の実現に向け、校務の改善、簡素化などの見直しに努める。	㉗ 校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。 ㉘ 校務の簡素化など見直しを行う。 ㉙ 会議の効率化を図る。 ㉚ 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。
キャリアパスポートに関するもの	㉛ キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。 ㉜ 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身に付ける。
授業改善	㉝ 授業評価アンケート項目における肯定的評価の向上を図る（A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%以上 E60%未満） ㉞ 高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」C2～D2を目指す。

別紙様式 1 （高）

	③⑤ 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度（KPI）の平均値 3.6 以上を目指す。
--	--